

整理番号	116	事業名〔地区名〕	交付金事業(河川) 〔相馬市 二級河川 梅川〕	全体事業費 (百万円)	3,260	採択年度	H1	完成目標年度*	R10 (H40)	担当部(局)課名	土木部 河川整備課
------	-----	----------	----------------------------	----------------	-------	------	----	---------	--------------	----------	-----------

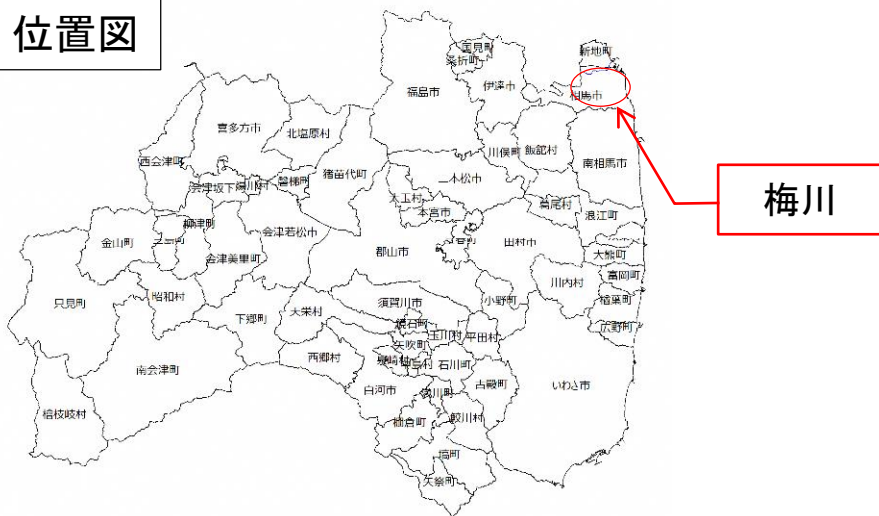
※完成目標年度は、標準的な工程を想定して設定しているが、毎年度の予算は担保されたものではなく、用地取得状況や施工上の条件変化等、不確定な要素があるため、確定したものではない。 []:当初計画時、<>:H21評価時、():H26評価時

評価対象理由	前回評価時(平成26年度)から5年経過で継続中	前回評価時の対応方針	委員会からの提言:事業継続、付帯意見等:なし、県の対応方針:事業継続
--------	-------------------------	------------	------------------------------------

1 事業の概要

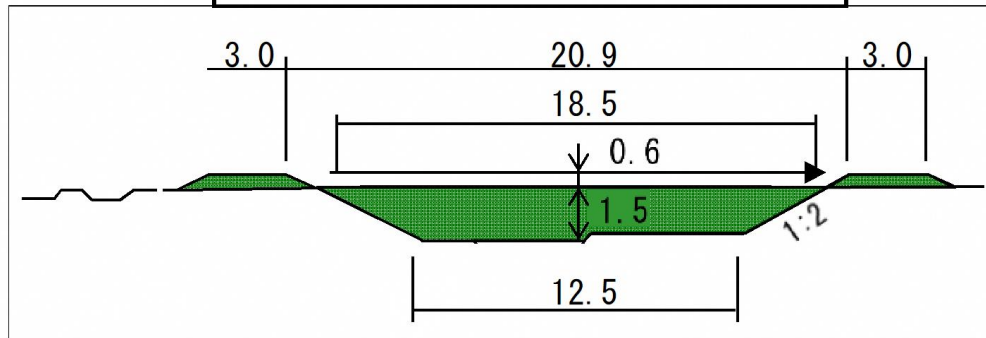
・昭和61年の台風をはじめ、度重なる洪水により多大な浸水被害が発生しているため、河積の拡大を行い、沿川の人家等への浸水被害の軽減を図る。

位置図

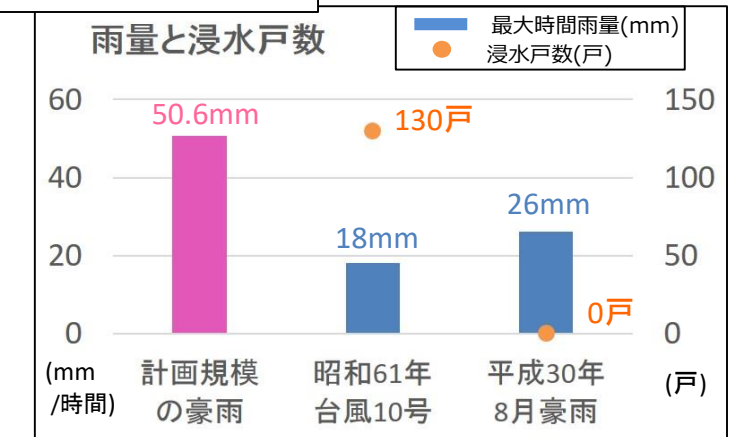


梅川

標準横断面図(中央排水路合流部)



過去の浸水実績



浸水状況等

① 整備済区間



② 平成12年7月8日 台風3号



③ 平成12年7月8日 台風3号



2 事業の進捗状況等

評価基準 A:特に問題なし、B:問題あるが解決の見込みあり、C:問題があり解決が難しい

(百万円)

全体事業費		事業 執行額	年度別執行額	
前回	今回 (前回差)		～30年度	31年度見込
2,600	3,260 (差+660) (比+25%)	2,119	2,119	63

(1)現状及び見通し [評価(A)・B・C]

- ・梅川は、河口部より2,750mの区間について整備が完了している。
- ・現在は上流の未整備区間について掘削、築堤を実施している。
- ・旧国道6号(県道相馬新地線)沿線の都市化が進み用地補償費が増加したことから、全体事業費が増加した。
- ・河川改修延長4,530mのうち、平成30年度までに2,750mが改修済みである。

(2)期待される効果 [評価(A)・B・C]

- ・本事業により、河川断面狭小区間が解消されることで、沿川の浸水被害の軽減を図ることが出来る。

(3)事業を巡る社会経済情勢の現状・変化、地元住民等の意向 [評価(A)・B・C]

- ・流域内の開発により市街化が進み、沿川には人家が密集していることから、台風や豪雨による浸水被害を防止するため、河川改修の必要性は依然として高い。
- ・地域住民の河川に対する関心は高く、概ね事業推進に対して協力的であるため、合意を得ながら計画的に事業を進めていく。

(4)評価指標の状況 [評価(A)・B・C]

評価指標	採択時(H1)	前回(H26)	完成時(R10)	備考
河川改修延長 4,530m	0m (0%)	2,100m (46%)	4,530m (100%)	

【その他参考となる数値】

○過去の浸水実績

発生日	事由	浸水戸数 (戸)	浸水面積 (ha)	最大日雨量 (最大時間雨量) (mm)
昭和61年8月	台風10号	130	142.7	123 (18)
平成3年10月	台風21号	12	0.2	82 (39)
平成4年6月	豪雨	58	0.8	163 (21)
平成6年9月	台風26号	14	0.5	139 (43)
平成9年5月	豪雨	3	0.1	79 (21)
平成12年7月	台風3号	8	7.2	269 (39)
平成30年8月	豪雨	0	0	26 (26)

過去の浸水実績以外に、近年では県道日下石新沼線が梅川の増水により頻繁に冠水している。

(5)費用対効果の状況・要因の変化 [評価(A)・B・C]

$$B/C = \frac{782.9 + 0.7}{51.1 + 5.9} = \frac{783.6}{57.0} = 13.75 \text{ (前回値 13.00)}$$

- ・[B]河川事業における総便益(氾濫防止便益+残存価値の合計)
- ・[C]河川事業に要する総費用(河川改修に要する事業費+河川維持管理に要する費用の合計)
- ・評価基準年度の見直しにより資産価値が増加したことから氾濫防止便益が増加し、費用対効果が上昇した。

(6)コスト削減の取組・代替案の検討状況 [評価(A)・B・C]

【コスト削減の取組】

- ・近隣他工事への発生土流用を積極的に進めている。

【代替案の検討状況】

- ・沿川の地形と土地の利用状況から、現河川改修案以外の方法は考えられない。

3 評価

(1)県の対応方針案	(2)理由
事業継続	改修済区間においては浸水被害の軽減が図られており、未改修区間の浸水被害軽減に向け、今後も計画的に事業を進める必要がある。